

「第 26 回国際鳥類学会議で発表をしました」

平成 26 年 8 月 18 日～24 日にかけて東京の立教大学において、第 26 回国際鳥類学会議が開催されました。4 年ごとに開催され、アジアでは 2002 年の北京に次いで 2 回目の開催となります。

この中で、嶋田が 2 つの発表を行いました。ひとつは口頭発表で「Effects of the Great East Japan Earthquake on the wintering distribution of Brent Geese」というタイトルで、東日本大震災がコクガンの越冬分布に与えた影響について、もうひとつはラウンドテーブルディスカッションで「Brent Geese wintering in the Tsunami area and radioactive contamination of animals at Lake Izunuma-Uchinuma」というタイトルで、被災地域で生きるコクガンと伊豆沼・内沼の生物の放射性物質の蓄積について発表しました。

64 カ国から 1,200 人ほどの参加があり、そのうち約 5 分の 1 が日本人でした。インドネシアのアチェ州から来た研究者と津波被災後の復興について議論したり、遠くはケニアやマラウイからの研究者とも親睦を深めました。また会期中にあったツアーの中では、世界遺産・富士山へ行くツアーが大人気で、定員の 4 倍を超える申し込みがあったそうです。

日本鳥学会の総力を挙げての開催で、私も含め、多くの学会員がマイク係やスライド係などのボランティアを行いました。数々の予期せぬ事態もあったそうですが、事務局のご尽力で、国際鳥類学会議は成功に終わりました。



口頭発表の様子（8月23日）